

新春インタビュー



三里塚芝山連合空港反対同盟
石橋副委員長 にさく（上）

＜編集委員会＞

新年あけましておめでとうございます。お忙しい所、さっそくで申し訳あります。んが『日刊』編集委員会として、80年の新年にあたり、昨年一年をふり返って見て、あるいはこれから反対同盟の抱負なりについておききたいと思っております。昨年の闘いを通じて一番心に残っている事は、といえどどんな事だったでしょうか？

＜石橋副委員長＞

昨年は、同盟にとっても大変な試練の年だった。しかしその一番苦しい時に千葉労働者の労働者が身を挺してストライキにたってくれた。同盟は皆、涙が出るほどうれしかった。

しかし、これに対して当局が労働者の首を切り、一〇六名もの大量不当処分を加えてきたことを聞いて、反対同盟は申すに及ばず私個人としても絶対に許せない怒りを感じている。新聞でさえそう書かざるを得ないほど、政治的意図も見え見えの処分だ。

卒直な気持ち、この一〇六名の不当処分に対してわれわれは本当に責を感じている。空港闘争に絶対勝つという事をもつてこれに臨まなければならぬと思っている。

これは私の思いつきなんだが、処分を受けた組合員へのはげましの一環として私らの方から出かけていって家族への激励なんかをぜひやりたいと思っている。一月八日の「同盟旗びらき」で全体にはかってみて決まればすぐにでもやりたい。

＜編集委員会＞

この不当処分に対しては、私たちも昨年末年始を返上して長期の抗議闘争を現在

全支部で継続中です。

新年早々の新聞にも「二期工事の成否は結局燃料問題だ」という論説が各紙にも出ていたようですが、わたしたちは今回の処分攻撃を見て逆にわれわれのジェット阻止・備蓄ゼロ闘争が敵に大変な恐怖を与えているんだという事を改めて実感したとも言えます。そういう意味では皆、憤慨と同時に、自分たちの力に自信と誇りを強めています。

その一方に、今回の処分で組合員が二様に憤慨している点が、例の「本部」暴力集団がわれわれの職場に大量におしかけ暴力をふるい破壊をほしめまわしていった件について、当局はあべこべに津田沼の支部長以下数名に宛てたデマを上げ処分を出し、千葉の組合員の手足をばり上げておいて奴らの暴力的破壊行為を積極的に奨励する態度を表明したという点にもあるんです。

先日、秋山千鉄局長は、わざわざこの件で『局報・号外』を出して、「今後は免職処分で臨む」などと完全に「本部」革マルと結託した弾圧通達を各現場管理者におろすという事までやっています。

＜石橋副委員長＞

本当に汚いことをする奴らだ。

去年一年間、千葉に対してあれだけの大量の暴力オルグ攻撃をかけたから、ついに千葉を解体することができなかつた。これはすごい事だ。

私はしょっちゅう全国を歩きまわっているが、この向は沖縄にも行ってきたが、全国どの住民運動をとって見ても三里塚問題をめざしてはありえないという点をつくづく感じてきた。それに加えて今度の動労千葉への支援の運動がものすごく拡がってきていて、どこに行っても、革マルと曰共をのぞく全ての組織が

何らかの形で大きく結びついて発展している。沖縄で、もっといってしまえば、連帯を強めてくれという声を至る所まで聞いた。三里塚と動労千葉がしっかりと固まって、それに沖縄をはじめあらゆる種類の闘いが合流しようとしている。この力でギョウ／＼やられるとなると革マルだって一寸安堵としてられない時代が来ちゃったでねえの、これ！（笑）

うちあたりでもね、今、電話夜になるともう座ぶとんかけっぱなしですよ。いやからせの電話。こないだなんかはね、封書に黒ワケなんかつけちゃってね、えげつない事書いてよこしたですよ。ちやうど沖縄に出発する日だったから持って行って沖縄で記者会見した時にこれを見せたら、あちらの新聞記者もビックリして載せたりもしましたからね！。

まあ革マルにすれば、千葉労働者が健在で、反対同盟がますます元気で、どこへ沖縄や全国の闘いが全部合流していっちゃうという事になればね、それは自分の組織の危機感を感じていようよ。私はよく言うんですが、電話や脅迫状などやりたきやんどんよこしてこれっです。こんなことぐれいさでヘコタレルようじゃあ、もう空港闘争なんか、一昨やそこらでもうやめちゃっているってんです（笑）。

なんでも最近「10・10内閣」に関して反対同盟が千葉労働者に弾劾決議をつきつけたとか、両者が反目しているなんていうデマを流しているらしいが、こんでもないウソをつくる奴らだ。

もっとも、昔から、いいかげんなデマの方が真実よりずっと早く伝わるというからね（笑）。

（以下、次号に続く）

謹賀新年

八〇年代の住民闘争のすべての勝利をになう三里塚闘争の先頭になって、闘う決意もあらたに、年頭の誓いといえます

今後とも諸兄の絶大な御支援をお願いします

元旦

成田市天神峰四二

石橋政次

